

**EDF**The Education for Development Foundation
มูลนิธิเพื่อการพัฒนาการศึกษา

ダルニーフォーラム

WWW.EDFTHAI.ORG/JP

第九号 2012年12月



教育機会をいただいたことに対する感謝



ネーイちゃんとお婆さんと話す



家の状況

ネーイ（本名：アンカー・プラトムパーニット）は15歳、ナコンラーチャシーマー県ダーンクントット郡のバーン・プラマカム・サマッキー校に通う中学校3年生の女の子です。彼女はEDFの奨学生で、我々は2012年11月29日に彼女の家を訪問しました。

我々が彼女の家に到着した時、ネーイと弟、そして4人のお婆さんが出迎えてくれました。支援者が自宅にまで来てくれたことに、感激して大歓迎してくれました。

彼女たちは高床式の古い木造の家に住んでいます。家にはきちんとした壁がありません。部屋は広間になっていて、そこにこの家に住む7人が一緒に寝ています。その7人とは、ネーイの他に、4人のお婆さん、弟1人とこの女の子1人です。ネーイはたった一人で、この家族全員の生活の面倒をみなければなりません。

彼女の父が亡くなった後、母は居所がわからなくなり、子どもにも連絡をしてこなくなりました。それ以来、ネーイは学校での勉強の他に、家族みんなを養うために働かなければなりません。

彼女は、お婆さんや弟たちを養うために、7歳の時から日雇いの仕事をしていたと聞き、私たちはとても驚きました。最近ネーイは、朝7時から夕方6時まで、家の掃除の請負、キャッサバ・唐辛子・トウモロコシの収穫の仕事を日雇いでやっています。これだけ働いても、一日の収入は、大体150バーツにしかありません。

しかも、仕事が終わって家に帰ってからも、家のあらゆる仕事をやらなければなりません。たとえば、家族全員の洗濯物を洗っています。同居しているお婆さん4人のうち、家の仕事ができるのはネーイは1人だけです。後の3人は、身体に痛みが出るようになり、家の仕事を手伝うことができません。4人のお婆さんがそれぞれ得ている収入は、毎月、政府が高齢者に支給している福祉金の500バーツだけです。

私たちが、奨学金について尋ねると、ネーイは「受け取った奨学金は、学校が供与してくれない勉強道具などをかうのに使い、余ったお金は、進学した時のために銀行に預金しています。」と答えていました。

またネーイの夢について尋ねると、「将来は建築家になりたいです。というのも、学校の勉強の中で美術が好きで、成績も一番いいからです」とはっきりと答えてくれました。お婆さんたちは口々に、「いつまで元気でいて、ネーイを支援できるかわからない。でもネーイがこれからも勉強を続けられるようにしてあげたい。そうすれば、私たちのように苦しい生活を送ら

ずに済むし、弟たちの面倒も見えてあげられる。」と言っていました。

ネーイは、恵まれてはいないけれども、教育を通じて、家族が貧困から抜け出すために、より良い将来をつかみ取ろうとする強い意思のある子どもの一人です。しかし、ネーイのような子どもにとって、「教育」とは手を伸ばしても手に入れることが大変難しいことなのです。というのも、「生計を立てること」が、当面の問題であり、それを日々解決していかなければならないからです。

皆様の暖かいご支援のおかげで、ネーイと同じようにたくさんの恵まれない子どもたちは中学卒業まで勉強することが出来ます。ネーイは『その奨学生たちの代表として感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。私たちは、奨学金を有効に使うことを約束します。』と力強く語ってくれました。

日帰り見学旅行から：

見学旅行の形で活動地域のタイ東北地方へ支援者の方々をご案内する目的は2つあります。現地の小さい学校の抱える問題と奨学生の置かれている現実について下記ご報告します。

現地の小さい学校の抱える問題

・政府からイサーンの小さい学校に対する予算は限られており、決して十分ではありません。例えば、学生は皆家からお米を持って来なければなりません。学校はたった一つのおかずを作り、学生に支給します。他のもの(タイ風ラーメンなど)が食べたかったら自分のお小遣いで校内の小さな屋台で買います。一方、イサーンの多くの学校は、自給自足のコンセプトで、学生の皆が昼食を取れるため農業関係プロジェクトに取り組んでいます。よく実施されているのは、例えば野菜の栽培や鶏やナマズの養殖などです。できた生産物は昼食に適用することはもちろんのことですが、それを販売し、得た収入は他の食材料の購入に使われます。



バーン・プラマカム・サマッキー校のきのこと栽培

恵まれない学生の置かれている現実

- ・イサーンの 大部分の貧困子どもたちは、仕事がなく、または少しの仕事しかすることができない高齢者取り残されることが大変多いケースです。生活するために彼らは、放課後、または、週末に働かなければなりません。学生のできる仕事は力を使う仕事を中心です。11月末に訪問した奨学生の場合は、週末に田んぼや畑の雑草の除去やキャサバ、トウモロコシ、唐辛子の収穫の仕事です。それ以外、人の家を掃除する仕事もあります。「生計を立てること」のため、勉強する時間はなくなり、成績にも影響をもたらし、学校を途中でやめる原因になることは多くあるのが現状です。
- ・タイ政府からの支援で学費は無償です。ただ、貧しい子はその政府からの無償支援以外、教育付帯費を支払えないのが大きな問題です。今回訪問した学校の場合、制服(450バーツ/人/年)、伝統制服(220バーツ/人/年)、靴(220バーツ/足)と3つの品目のみの支援がありました。その他の費用、例えば、靴下、運動服、ボーイスカウト服など、自分で一切負担しなければなりません。

EDF基金を通じて、機会に恵まれない子どもたちにご支援いただいています。1年間2,000バーツという金額はこれら全ての費用をカバーできるものではありませんが、勉強するためにかかる種々の費用の負担を軽くすることができます。政府の政策では、勉強道具や制服にかかる費用をすべて負担してはくれないのです。昼食の費用も同様です。十分な昼食をとることは、学校に通う年代の子どもたちにとって、健康と知性の発達に欠かせないもののなのです。

EDFは、皆様の暖かいご支援が教育の機会に恵まれない子どもたちの将来への大きなチャンスに結びつける懸け橋となるよう今後も最善を尽くし頑張っまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ニュース・イベント



学校の前で集合写真



支援者が校長に贈呈物を手渡す



Thai Value Investor 協会から250,000 バーツのご支援

2012年11月24日、Thai Value Investor 協会の懇談会にて、会長のタンワー・ラオハシリヤン氏にダルニー奨学金制度へ250,000バーツをご提供いただきました。同会は毎年会費と開催する活動からの収入から、社会貢献活動に役立っております。

第三回「イサーン奨学生生活状況見学旅行」

2012年11月29日、タイの恵まれない子どもたちにご支援いただいている皆様に教育機会の大切さをご理解いただくことを目的とするイサーン奨学生生活状況見学旅行を開催しました。今回も前回と同様、クラブタイランドのご協力をいただき、バンコクから出発してナコンラーチャシーマー県のダーンクントット市にあるバーン・プラマカム・サマッキー校を訪問し、2人の奨学生の家庭も訪問しました。また、参加者の方々が持参いただいた文房具やスポーツ用品などを学校に寄贈しました。



奨学生の家を訪問



EDF

The Education for Development Foundation
มูลนิธิเพื่อการพัฒนาการศึกษา

The Education for Development Foundation (EDF)
50, Kasetsart University Alumni Bldg., Phaholyothin Rd., Ladyao,
Jatujak, Bangkok 10900
Tel. 0-2579-9209-11 (タイ語) 0-2942-8538 (日本語) Fax. 0-2940-5266
Email: public@edfthai.org URL: www.edfthai.org/jp

日本でのお問い合わせ：一般財団法人 民際センター
〒162-0081 新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783
Email: info@minsai.org URL: www.minsai.org